



たまだれ
No.51

玉垂

Tamadale

巻頭特集

神代からの教えを守り伝える祭り

にい なめ さい
～新嘗祭の齋行～

特別寄稿文

エヌベーミネルヴァ株式会社 代表取締役社長
お守り研究家

中津川昌弘

～“お守り”に込められた日本人の願い～

小國神社の由来

昔

創始は神代と伝えられ、延宝八年（一六八〇）の社記によると、人皇二十九代欽明天皇の御代十六年（五五五）二月十八日に本宮山峯（本宮山）に御神霊が顕れた後、勅使が遣わされ、山麓約六キロの現在地に社殿を造営し、正一位の神階を授けられました。

それ以来、年々御神前に幣帛を捧げられ文武天皇大宝元年（七〇一）春十八日に勅使奉幣の際、特に十二段舞楽を奉奏されました。延喜七年（九〇七）延喜式内社に列せられ、中世には徳川家康をはじめとする武将など、朝野の崇敬が極めて篤く近世に至っております。

元龜三年（一五七二）の戦では、家康公は御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後、社殿を全て焼失しました。

天正三年（一五七五）に勝利を得た家康公は、御本殿の造営、拜殿・楼門を再建され、更に社領五九〇石の朱印を奉り、以降世々の徳川將軍家より、社殿の改造・修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日に国幣小社に列せられ、明治十五年三月に再度の火災により御本殿以下建造物など消失しましたが、明治十九年に復興され現在に至っております。平成十七年には御鎮座一四五〇年祭が斎行され、『遠江国の一宮さま』として崇敬され広く親しまれております。



小國神社のはじまりから
現代までの壮大な物語

おくにじんじや
小國神社ものがたり
ご祭神とともに

公式ウェブサイト特設ページで
スペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり

検索

日本の神様の物語は
『日本の良き国柄』、『伝統』、『文化』を
今に伝えています。

この物語は、静岡市在住の絵本・造形作家のたたらなおきさんよりご奉納いただいた全長約七メートルの絵物語をもとに作成をしたアニメーションです。神代より語り継がれてきたお話には、

日本人の「豊かで優しい和の心」の原点が描かれています。神々の営みの中から「正しい道筋をたて生きてゆくことの大切さ」や、「思いやりのこころ」を学びましょう。



宮奥橋近くの紅葉（平成29年11月26日）

御神鏡

先ず以て、皇室の御事につきましては、去る六月十六日「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」が公布され、十二月一日の皇室会議を受け、同月八日の閣議において、天皇陛下のご譲位のお日にちを平成三十一年四月三十日と定める政令を決定致しました。今後、ご譲位に向けての諸準備が宮内庁を中心に執り進められて行くものと拝察致します。皇位継承に関わる全ての儀式が、皇室の長い伝統と皇位の尊厳を踏まえ、「国家の重儀」として執り行われることを切に望みます。

さて、本号の巻頭写真に掲載を致しました、ご本殿大床下に雲形の鏡台に奉安された清々しく輝く御神鏡がごございます。この御神鏡は、本年十一月十八日に(株)久米吉 代表取締役倉島正三様、良枝様ご夫妻よりご奉納賜りました。同じ場所に奉安されていた御神鏡は、明治二十六年に当時の神職等により奉納されましたが、長年の風雨に曝され劣化が進んだ状態となっております。此の度の倉島様のご厚志により、実に一三三年ぶりに御神鏡が新調され、新たな年を迎えられることは誠に感慨深いものがあります。御神鏡の輝きとともに、大神様のご加護もより威を増し、広く行き渡ることと存じます。

ところで、来年は平成三十年、明治天皇の尊い思召しにより、「五箇条の御誓文」が公布され一五〇年、『明治一五〇年』の佳節を迎えます。欧米列強の脅威に曝された幕末の日本は、「自主独立」、「自存自衛」の覚悟を以て近代国家への国作りをめざしました。特に憲法、国会、教育制度、個人の尊重など、一五〇年前に公布された「五箇条の御誓文」が原点といえるでしょう。結果、我が国はこの一五〇年の間に、国際社会の一員として外交力を強め、国内政治の発展、経済成長など、大国の道を歩んでまいりました。そして現在、我が国を取り巻く状況は内外ともに厳しさを増しています。排他的ともとれる各国の政治動向や北朝鮮による核ミサイル開発、覇権主義を纏った隣国の軍備拡大などの脅威は私たちの身近に迫っています。しかしながら、この間に、果たして日本は「自主独立」、「自存自衛」の国になったでしょうか。私たちは、「独立自尊」の気概をもち続けていたでしょうか。激動と繁栄の明治の御代に思いを致し、来年の佳節を迎えたいと思います。

聖寿の万歳、皇室の弥栄を寿ぎ奉り、国の隆昌と世界の平和、そして氏子崇敬者各位のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成二十九年十二月十日

神代からの教えを守り伝える

祭り

新嘗祭の齋行

ご参拝の皆さままで賑わう十一月二十三日(木)に新嘗祭を齋行いたしました。

氏子崇敬者の皆様方よりご奉納いただきました農産物をご神前にお供えし、今年一年の豊かな稔りと諸産業の発展に感謝を捧げました。

『新嘗祭』は、私たち日本人の精神文化の礎であり、『和の心』を育んできた大切なお祭りです。



新嘗祭とは

稲の新穀を捧げ、ご神恩に感謝する我が国において最も重要なお祭りのひとつです。新嘗祭の歴史は古く、日本の国の成り立ち、歴史を記した書物である『古事記』『日本書紀』にも天照大御神が新嘗祭を行なったことが記されています。宮中においては、神武天皇の建国以来、歴代天皇の祭祀の中でも特に大切にされ、天皇がその年に収穫された稲などの食物をお供え物として天照大御神を始め、八百万の神々に捧げ、自らも共に召し上げられ、ご神恩に感謝をされます。毎年十一月二十三日に行なわれる新嘗祭には、内閣総理大臣と農水大臣、集参院の議長、最高裁の長官などが国民の代表として参列します。また、この日は、全国津々浦々にある神社でも新嘗祭が執り行われます。現在では、収穫への感謝とともに諸産業の発展を祝います。

齋庭の稲穂の神勅

私たちの総氏神とされる天照大御神が孫にあたる邇邇芸命に、日本を平和で豊かな国にするためにといた三つの大切な教え(神勅)の一つが「齋庭の稲穂の神勅」です。高天原(天上界)の稲を地上(豊葦原瑞穗国)で育て、稲穂がたわわに稔るような豊かで安定した国をつくりなさい。との教えです。我が国において、「稲穂」と「稲作」は神さまから頂いた大切なものであり、「命の根」(稲の語源の一つ)として私たちの食生活はもろちん、日本文化の基礎となつて今日まで続いています。

科学技術が進歩した現代においても、「新嘗祭」が宮中を始め、全国の神社で行なわれるのは、神代からの教えを守り伝えているからなのです。

稲と日本のはじまり

「日本書紀(『古事記』)巻第三「神代下」第九段、書第二」
吾が高天原に所御す齋庭の穂を以て亦吾が児に御せまづるべし。

我が子(男系の男子の天皇)に高天原で育った神聖な齋庭の稲穂を与えますので、地上で育て主食とし、実り豊かで安定した国を作りなさい。





第六十一回奉納農産物 品評会開催

日照不足が続く作物の生育状況が心配されましたが、見事なでき

ばえの奉納農産物がならびました。

本年は、約一九〇点もの農産物のご奉納を賜り、新嘗祭斎行後には奉納農産物即売会も行われ、大変な賑わいとなり大盛況のうちに完売となりました。

ここに品評会で受賞された方々をご報告いたしますとともに、篤く御礼申し上げます。

●小國神社振興会賞

- ・米 宮代西 鈴木 功
- ・メロン 米倉 平田秀幸
- ・里芋 赤根 鈴木正利
- ・唐辛子 円田下 小林 隆
- ・カラマツ 中川上 伊藤忠敏

●特等賞

- ・さつまいも 草ヶ谷 小澤弥一
- ・トマト 赤根 藤田昌宏
- ・胡桃 円田下 小林 隆
- ・蜜柑 上川原 鈴木英夫
- ・玄米 中川上 伊藤忠敏

●特別賞

- ・十三点嵩 宮代東 松尾貞子

●協力賞

- ・第一位 牛飼部農会
- ・第二位 円田上部農会
- ・第三位 上川原部農会
- ・第四位 中川上部農会
- ・第五位 中川下部農会

●小國神社賞

- ・大根 宮代東 松尾貞子
- ・ブロッコリー 宮代東 松尾貞子
- ・米 円田上 鈴木伸明
- ・治郎柿 谷 中 西尾貞雄
- ・茶 中川上 本多利吉
- 遠州中央農業協同組合理事長賞
- ・ゴーヤー 米倉 佐野正昭
- ・生姜 米倉 山出博司
- ・椎茸 橘 高木やす子
- ・米 中川上 鈴木定男
- ・キウイ 牛飼 堀内喜久江



平成二十九年

篤志奉納者へ感謝状贈呈

新嘗祭に合わせ、昨年十一月より本年十月までに、ご篤志により大前へご奉納された皆さまへの感謝状贈呈式を行いました。

本年は、御神鏡・雲形台一式をご奉納された(株)久米吉の

代表取締役社長 倉島正三様、日本国内の貴重な民芸品である土鈴一三、三〇〇点をご奉納

された鈴木正彦様、また、トイレ改修工事一式をご奉納さ

れた(有)富士鉄工代表取締役鶴見和弘様をはじめとする十一

名の皆さまに感謝状を贈呈いたしました。

ここに、ご奉納品名・ご芳名を掲載し、改めまして篤く御礼申し上げます。

●古式神酒仕込み用薪

- 古神札納め所外一棟 屋根塗装一式 山本欣生
- 黒松一本 及び 松消毒作業一式 株式会社鈴木建築 鈴木清次

- 本宮山参道鳥居 小國神社本宮山鳥居 建設奉賛会 会長 中村虎司

- サイクルスタンド一基 サイクルショップパストラール 谷口健司
- トイレ改修工事一式 (有)富士鉄工 代表取締役 鶴見和弘

- 御神鏡 雲形台 株式会社 久米吉 代表取締役 倉島正三
- 記録撮影一式 村松藤平
- 土鈴一三、三〇〇点 鈴木正彦
- 古式神酒用米(五年) 榊原淑友
- 小國神社の花々(増補版) 坂部哲之

(順不同 敬称略)



鈴木正彦様



ご奉納の土鈴



玉串拝礼



もみじまつりでのひととき▲



佐々木優太先生によるご講話(遠州とこわか塾)▲

静岡県西遠女子学園体験学習

『学びの庭、神社』
日本文化の原点がここに

八月十九日(金)の私立西遠女子学園中学三年生の生徒三十名が体験学習に訪れました。

今回の学習は、生徒たち自らが、テーマを「遠州の神さま」→伝統を受け継ぐ人々の新たな取り組み」とし、体験学習を企画しました。

講義では職員が、「伝統を受け継ぎ次世代に繋いでくためには、先人たちが築いた精神文化をよく学び、変えるべきものと変えてはならない事柄を熟慮し、少しずつ現状に変化を加えることが大切です。」と生徒たちに説明し、当社での取り組みを紹介しました。

一次世代を担う女子学生が自国の伝統文化に、学ぶ姿勢は美しく、大変心強く感じられました。



静岡県西遠女子学園の皆様▲

第八期第一回「遠州とこわか塾」の開催

常に心のアンテナを高くして、感性を高める

十月十六日(日)第八期第一回目の『遠州とこわか塾』を開催いたしました。

講師に神社参拝家・ラジオパーソナリティ・シンガーソングライターと多方面で活躍中の佐々木優太先生をお招きし、神社参拝の魅力についてお話を賜りました。

先生は約九年かけて全国津々浦々の神社を一〇、〇〇〇社以上巡拝し、そこで得た貴重な経験を通じて、神社が護り伝えてきた日本の精神文化の尊さを広く伝える活動をされています。

民俗学者顔負けのフィールドワークから導き出された鋭い考察と関西弁での軽快な講義に、塾生一同、時間を忘れて聴きっていました。

もみじまつり

秋色に染まるご神域で賑わいのひとときを

十一月二十六日(日)に小國神社の秋を彩る賑わいの催し「もみじまつり」を開催いたしました。

境内各所では、和琴による奉納演奏、縄巻修巳様による尺八奉納演奏、甘酒の無料授与、敬神婦人会によるおしるこの授与や呈茶席などを行いました。

特に、今年の呈茶席では、世界的な画家で森町出身の松井冬子様がお点前のご奉仕をされました。

美しく染まったもみじの下で、多くのご参拝の皆さまが風情を楽しみながら、お点前をいただきました。

特殊神事 疫神齋の齋行

当社に現存する最古の記録
「延宝の記録」にも記された祭祀

十一月十九日(日)、当社の特殊神事のひとつでもある疫神齋を齋行いたしました。

このおまつりは拝殿中門に設置した神籬(ひまわり)(神霊を招き降ろすために、清浄な場所に榊などの常緑樹を立て、周りを囲って神座としたもの)に須佐之男神、大物主神、事代主神、行疫神をお招きし、さらに本社の大己貴命も含めた五柱の神々に疫病退散と国家国民の安寧を祈るものです。

当社の現存する最古の記録「延宝の記録」十一月十九日の条に齋行の記録が記され、少なくとも三〇〇年以上前から執り行ってきたことが伺えます。

祭典後は、世話人、組長、町内会を通して『疫神齋神札』が全氏子へ授与されます。





平成二十九年十一月一日

小國ことまち横丁二丁目

「ことまち夢小径」オープン

ことまち夢小径でお腹も心も満たされる
そぞろ歩きを楽しもう

「ことまち夢小径」には森町中心地で店を構えてきた明治初年創業の老舗「ヤマチヨウ本店」が一〇〇余年ぶりに移転し、静岡県産最高級抹茶使用の「ことまちわらび餅」やピザやパスタを揃えた「ことまちカフェテリア」が新たにオープンしました。

オープニングセレモニーには、森町長太田康雄様を始め、関係者約一〇〇名が出席し盛大に行われました。鈴木康之社長は「神社と一体となった門前の賑わいを一層創出し、次の一〇〇年に繋げていきたい」と力強く語りました。



小國神社と人と暮らしかみのたな展

一日の始まりに心静かに柏手を打つ
丁寧な暮らしかたをはじめましょう
十一月十八日(土)〜十一月二十六日(日)の十日間、

当社研修室二階特別展示室で第三回「小國神社と人と暮らしかみのたな展」を開催いたしました。本展では、「神さまを身近に感じて一日を始める丁寧な暮らし方」をコンセプトに、日常の「感謝」の気持ちを届ける祈りの場「かみだな」の大切さと「家庭のまつり



のこころ」をお伝えしました。

また、神々の恵みによる豊かな稔りに感謝をする「新嘗祭」についての特別展示をメインに、小國神社の歴史やお神札のおまつりの方法を解りやすくお伝えしました。

また、森町産の美味しい新米を神だなにお供えた後にご家族でお召し上がり頂けるように「神饌米」をご用意いたしました。

期間中は、約二、〇〇〇人が訪れ、現代の住空間に馴染む神だなに多くの関心を集めていました。



◀静岡木工の皆さま

▶お神札のおまつりの方法を丁寧に説明するスタッフ



第21回静岡県民俗芸能フェスティバル 〜田遊びと舞楽〜

県内各地で受け継がれてきた貴重な神事芸能。幽玄の伝統に触れる

九月二十四日(日)に森町文化会館大ホールにて行われた、第二十一回静岡県民俗芸能フェスティバル『田遊びと舞楽』に小國神社田遊神事保存会と小國神社古式舞楽保存会が出演いたしました。

披露された森町、三島市、焼津市の各地に伝わる神事芸能は、同じ演目であっても驚くほどその形態が違い、地域性が顕著にあらわれます。

我国は世界稀に見る生きた神事芸能・民俗芸能の宝庫です。郷土の神事や芸能に幼い頃から親しむことは日本人としての文化的素養を養い、豊かな情緒を育みます。



五番「太平洋」

九番「苗賛め」

小國神社敬神婦人会教養研修会の開催

時局的課題を学び、より良い国づくり、人づくりを目指して

十月四日(水)に荒木榮子先生を講師に迎え『憲法おしゃべりカフェ』を開催いたしました。当日は敬神婦人会会員五〇名が聴講し、時局的課題を学びました。

我国を取り巻く国際状況は激変しています。排他的ともとれる各国の政治動向や覇権主義をまとった隣国の軍備拡大の現実的脅威は、私たちの側まで迫っています。

真の世界の平和と安定のために、私たちは活発に議論し、現実に応じた方法論を模索していかなければなりません。

受講後は、会員の皆様は「国作り」、「人作り」の思いを新たに、様々な意見が交わされていました。

九月一日防災デー防災訓練の実施

「備えよ常に」の心掛けを胸に

九月一日(金)に地震発生後の社殿群の火災を想定した防災訓練を行いました。火災発生時、的確な初期消火を迅速に行なうことが減災に繋がります。

当日は、設置箇所すべての消火栓を使った一斉放水を行い、消火器等の防災設備、自家発電システムの点検を行いました。

また、新職員は、防火担当の職員より手ほどきを受け消火器操作の訓練を行いました。

我国は、自然の豊かな恵みが溢れている一方で、その地理的条件から常に自然の脅威にさらされています。日頃、あらゆる自然災害に対しての「備え」を常に心掛けることが大切です。

小國神社敬神婦人会「憲法おしゃべりカフェ」の開催



フランス・アルザス地方よりご参拝の欧日文化交流会の皆様



消火器操作の手ほどきを受ける新入職員



森町立三倉小学校職員研修



神々とお祭り

私たちの祖先は、神々の営みのなかから生き方を学び信仰の礎としてきました。

また、古くからの伝承や歴史をふまえ、豊かに暮らす知恵を生活のなかに生かし、神々と生活をともにしてきました。

毎年同じ時期にお祭りが繰り返し行なわれ、私たちはその中で信仰や文化をかたちづくってきました。

「お祭り」とは、

日本の伝統にもとづいて、神々に対する祖先のこころを今に伝える大切なかたちです。



“お守り”に込められた日本人の願い

中津川昌弘

エヌペーミネルヴァ株式会社 代表取締役社長
お守り研究家

浜松に生まれた私は、よく祖母などにつれられて小國神社に参拝していました。初詣や6月の一宮花しようぶ園の思い出は今でも忘れられず、節目節目に神社で『お守り』をいただくことをいつも楽しみにしていました。このような体験を通して、私の考え方や情緒は幼少の頃より育まれていったように思います。

日本人は古代より自分を守ってくれる神様を身近に感じていました。自然のありとあらゆる物に神が宿り、私たち人間はその恩恵を受け、感謝してきました。

静寂の中に神を感じ、木の繁みに弥栄を感じ、花に哀愁を感じました。日本人は生まれながらに自然に対する感受性が繊細なのです。

神を身近に感じていたからこ



縁結び“もみじ守”

人々の様々な縁を結ぶ

災いなく無事の

一年を願って



ご祭神の宝器
打出の小槌の刺繍があしらわれた
“厄除錦守”

そ、『お守り』という形で具現化したものを肌身離さず持ち、神の加護を実感していたのです。

日本人とお守りの歴史を辿っていくと、遙か昔の縄文時代には装身具の一つとされていた勾玉にまで遡ります。平安時代になると陰陽道や仏教の影響を受け小さな護符を自作の袋に入れて携えるようになりました。江戸時代には布や木片に自分の信仰する神様の名前を書き服に縫い付けたり、現在の木札と同じような物をお守りとしていました。時代は下り、より具体的な願いに応じるようにお守りも変化してきました。現在の複雑な社会状況や多種多様な生き方があるように、人々の願いや悩みも様々です。

真摯な願いはたいいてい叶います。何のための願いなのか？この願いの本質はどこにあるのか？それを見つけることから始めましょう。この本質が神様とつながったときに願いは叶えられるのです。

最新の医学でも、祈りと治療の関連性が研究され、効果が次々と実証されています。米国ではPrayer Therapy(祈り療法)として注目され、ハーバード大、カルフォルニア大などの一流大学でも研究されています。効果的な祈り方もデータ上明確になってきて、我々日本人が普通に行っている神仏に対する風習と同じ傾向なのです。

お守りには思いもよらない力があります。だから、私たちはお守りを求め、身につけるので

良い願いは良い縁を結んでくれます。日々守ってくれる神様やお守りに感謝していれば、私たちを守り、縁を結び、福を授けてくれるのです。

日本書壇の大家
森町出身の杭迫柏樹先生
による揮毫の“お守り”



“諸芸上達守”



プロフィール

中津川昌弘

現代神社と実務研究会理事、IT会社代表、NPO法人理事兼代表を務める。米国留学中に日本文化の重要性に気づき、帰国後、伝統文化や神社仏閣の研究を重ねる。「文化は経済の触媒」を活動のテーマとし、多数の雑誌での掲載のほか、TV番組に出演（マツコの知らない世界（TBS）、ピエール瀧のしょんないTV（SATV）等）し、お守りの魅力を紹介する。

■著書

「願いが叶う小さな神様 にほんのお守り」（徳間書店）、「日本全国開運神社とお守り（仮題）」（ダイヤモンド社）などがある。

http://omamori-life.com
（公式WEB お守りライフ）

Twitter : @omamori3

Facebook : @naka2gawa

新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える
「人の一生」

様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。

また、ご家族で考えられたお名前候補の中から、ご相談の上、選名いたします。

お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前でお祈りし、お神札、朱印を押印した命名書を授与しております。

命名

平成二十九年七月一日(土) 平成二十九年十一月三十日(木)

堀川	道生	掛川市	伊藤	弘人	袋井市	寺田	惇杜	磐田市	江元	彩	森	町
鈴木	奏杜	袋井市	藤田	侑弥	磐田市	鈴木	楓	袋井市	松村	彩葉	焼津市	
小長井	敬丞	袋井市	布施	篤人	菊川市	早苗	実乃里	浜松市	竹原	一心	袋井市	
松下	千紗	浜松市	宮崎	将聡	掛川市	佐藤	律	掛川市	向島	朱莉	森	町
佐藤	新	掛川市	笹川	毘世	磐田市	鈴木	繕	袋井市	松島	奈々羽	浜松市	
二俣	吳暉	菊川市	村松	葉奈	袋井市	飯尾	朱理	浜松市	池田	涼真	牧之原市	
増田	樹	袋井市	小倉	涼羽	森	町	安間	柗真	磐田市	望月	咲太郎	焼津市
松浦	快采	袋井市	鈴木	爽太	袋井市	佐伯	俊輔	掛川市	伊藤	優花	浜松市	
小柳	津元	就	掛川市	小澤	悠人	袋井市	功樹	掛川市	楠	悠都	東京都	
小出	乙葉	浜松市	渡邊	花音	袋井市	武藤	功樹	掛川市	正田	よしみ	袋井市	
宮谷	袖衣	袋井市	藤森	栞	磐田市	太田	瑛斗	袋井市	小野	楓	浜松市	

お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名・命名奉告で検索



命名
父 小國 太郎
母 花子
長男 大和

当社で命名奉告をされた皆様
 お子様の健やかな成長をお祈りします



神社を知れば日本がわかる “まっりの国、日本”



イラスト 小國神社ものがたり 作 たたら なおき

●山の神さま●
 春になると田の神さまになるの???

山の神は、『生産』を司る神さまとも言われています。
 私たちの祖先は、イノシシ、シカなどの獲物や樹木、草花、銅や鉄などの鉱物資源、田を潤す水にいたるまで、山からもたらされる恵みは全て山の神の

お陰であると考え、感謝と祈りを捧げてきました。
 また、田の神と山の神は同じ神さまであるともいわれ、山の神は春になると人里に下りて田の神となって稲を守り、豊穰をもたらします。秋に収穫が終わると山に帰り、私たちを見守っています。

これからの 行事

3月



平成30年1月21日(日)午前9時より どんど焼き祭

どんど焼きは、お正月に飾った注連縄や門松、古いお神札やお守りを焚き上げ、各家庭でお正月にお迎えした歳神様（ご先祖様の御霊）をお送りする大切な神事です。

神聖な神事の妨げとなる不要物（ぬいぐるみ・人形・おもちゃなど）をお持ち込みにならないようお願いいたします。



田遊び神事 6番苗草踏み

2月

きさらぎ
如月

- 1日 月次祭 (午前 9時)
- 3日 節分祭世話人祈祷祭 (午前11時)
- 3日 節分祭 (午後 2時)
- 6日 初甲子祭 (午前 9時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 11日 紀元祭 (午前10時30分)
- 15日 宗像社・飯王子社
・白山社例祭 (午前 9時)
- 15日 塩井神社例祭 (午前10時)
- 18日 祈年祭 (午前10時)

3月

やよい
弥生

- 1日 月次祭 (午前 9時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 18日 真田城趾慰霊祭 (午前10時30分)
- 18日 鉾執社例祭 (午後 1時30分)
- 18日 月次祭 (午前 9時)
- 20日 春季皇霊祭遙拜式 (午前 8時)

〈例祭日程のお知らせ〉

- 4月14日 猷詠祭 (午前 9時)
- 14日 氏子入奉告祭 (午後 2時)
- 14日 古式十二段舞樂奉奏(重文) (午後 2時)
- 15日 古式十二段舞樂奉奏(重文) (午前11時)
- 15日 神幸祭 (午後 2時)
- 17日 前日祭 (午前10時)
- 18日 例祭 (午前10時)



◀ 歳旦祭

1月1日午前2時より齋行いたします。

新年を祝い皇室の弥栄と国の益々の発展、氏子崇敬者と地域社会の平和と繁栄を祈るお祭りです。

▶ 手鉾始祭



1月11日午前8時より齋行いたします。

古くから伝わる特殊神事の一つで、代々宮大工の皆さまがご奉仕されます。古式による所作が古の技を伝えます。

小國神社の 祭典・

12月～

平成29年12月31日(日)午後3時より 師走大祓式・除夜祭

日常生活の中で犯した罪や過ち、心身の穢れを人形に託して川や海に流し、祓い清める神事です。

引続き、無事の一年を感謝し、佳き年を迎えることができるようお祈りする除夜祭を執り行います。両祭典とも、どなたでもご祭列ができます。

一年の罪穢れを祓い、身も心も清々しい気持ちで新年をお迎え下さい。

12月

しわす 師走

1日	月次祭	(午前 9時)
2日・3日	大骨董蚤の市	(日の出～午後3時)
3日	甲子祭	(午前 9時)
6日	本宮山月次祭	(午前10時)
16日	鎮火祭	(午後 3時)
18日	月次祭	(午前 9時)
18日	滝宮例祭	(午前10時)
18日	初穂献納祭	(午前11時30分)
23日	天長祭	(午前 9時)
25日	煤佛祭	(午後 1時)
31日	大祓式・除夜祭	(午後 3時)

1月

むつき 睦月

1日	初祈禱祭	(午前 0時)
1日	歳旦祭	(午前 2時)
2日	日供始祭	(午前 8時)
3日	元始祭・追儺祭	(午前 8時)
3日	田遊祭	(午後 1時)
6日	本宮山例祭	(午前10時)
7日	昭和天皇祭遙拝式	(午前 8時)
7日	神明宮参拝	(午前 9時)
9日	寒の丑日水汲祭	(午前 2時)
11日	手鉾始祭	(午前 8時)
17日	八王子社例祭	(午前 9時)
17日	御弓始祭	(午前10時)
18日	月次祭	(午前 9時)
20日	～2月3日 厄除大祭	
21日	どんど焼祭	(午前 9時)



おひみ ほんの さい 御弓始祭

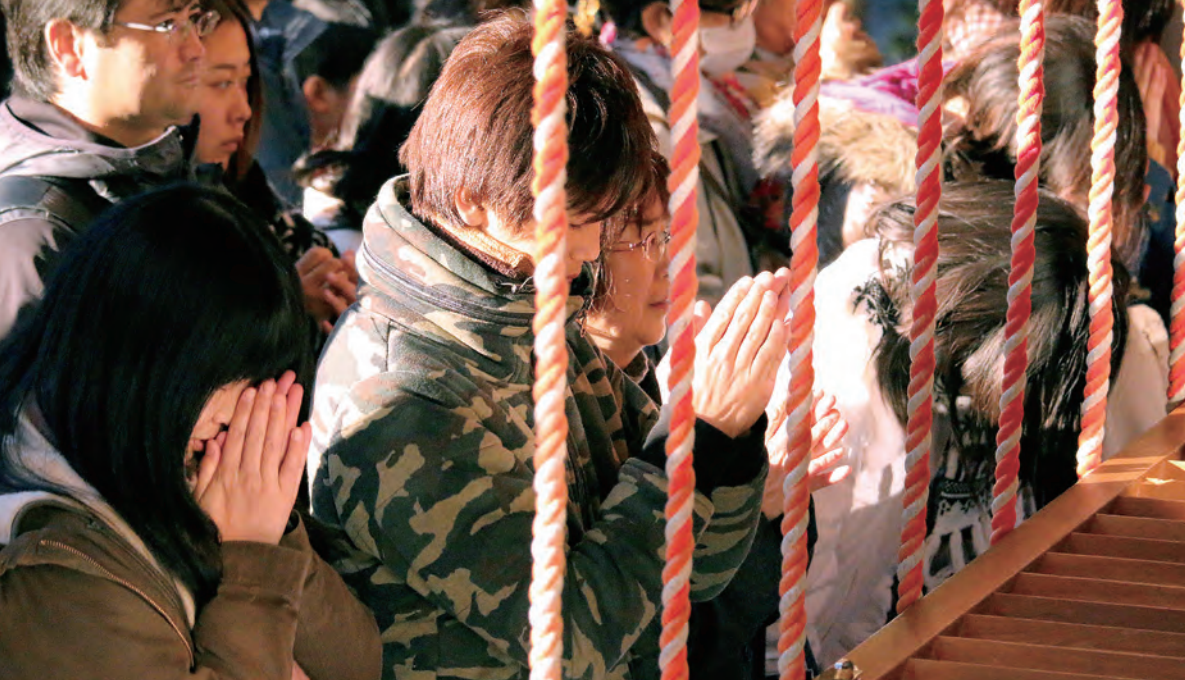
1月17日午前10時より斎行いたします。

当社では、『疫神鎮送』の神事として、災い除けの側面も持ち合わせています。的に向かい放たれた矢は、災難除けの縁起物として持ち帰る方が大勢います。



節分祭・豆撒き神事

2月3日午後2時より斎行いたします。豆撒き神事等、全員参加型の神事で、多くのご参拝の皆様で賑わっています。元は宮中の年中行事として行なわれ、現在では、日本の国民的な伝統神事として定着しています。



温かい我が家
 年が改まり、心も改まる
 日本中が「おめでとう」の
 声につつまれる

暮らしに生きる「神道」 お正月

「明けましておめでとうございます」年が明けると日本中がこの言葉に包まれます。「おめでとう」と挨拶をされると、誰もが「おめでとう」と答えます。慣れ親しんだ光景ですが、「お正月」が私たちの暮らしにおいて特別なものであることがわかります。

神代より、日本人は稲作を中心とした生活を営んできました。春に蒔かれた籾は早苗となり、初夏の田植えを経て、秋には黄金色の稲穂をたわわに稔らせます。そして、冬になるとお米の一粒一粒が新しい生命を蓄え、巡り来る春を待ちます。私たちの祖先は、この時のながれを「年(歳)」と呼ぶようになりました。

お正月は、単に一年の始まりだけではなく、農事を始める前に、その年が豊作であるように神さまにお祈りする大切な神まつり(予祝)でした。

今日では、本来の意味が忘れられがちですが、お正月は『神さまと人とを結びつけ、家庭の和を育む大切な伝統行事』の一つです。



お正月は歳神さまを お祀りする神事

わらべ歌の中に

「お正月さまがごーざった

何処までごーざった 神田までごーざった

何に乗ってごーざった 交譲木(ゆずりは)に乗って

ゆずりゆずりごーざった」

という歌があります。お正月の訪れを指折り数えて待つ子どもたちの姿が目につかびます。昔も今も変わらない心持ちではないでしょうか。

さて、ここで出てくる「お正月さま」は「歳神さま」のことで、年の始めに家を訪れ、家族に幸せを授けて下さります。

この歳神さまは稲の魂であるとともにご先祖さまの御霊と一体のものであるとの信仰があります。

年末からお正月にかけて行なわれる様々な行事は、すべてこの歳神さまをおまつりするのためのものなのです。



歳神さまをお迎えするための

年の暮れになると、どこの家庭でも大掃除をして、お正月を迎える準備をおこないます。大掃除のときには、神だなや御霊舎を綺麗にし、お神札も新しくします。玄関に注連飾りや、門松を飾るのは、その場所が清浄であると示し、歳神さまを家にお迎えする目印となります。そして、鏡餅を飾って歳神さまにお供えをします。

近年では、核家族化や住環境の変化によりマンションや洋室などでお正月を迎える場合、「門松を飾る場所がない床の間がない」という方も多いのではないのでしょうか。そのような場合は、市販の正月飾りを用いたり、タンスや飾り棚の上に鏡餅をお供えするとよいでしょう。

何よりも大切なことは、清々しい気持ちで迎春準備を整え、真心で神さまをお迎えすることです。



神さまと人を結びつけ、家庭の和を育む。

健康で充実した人生を願う

遠江國宮 小國神社

厄除大祭

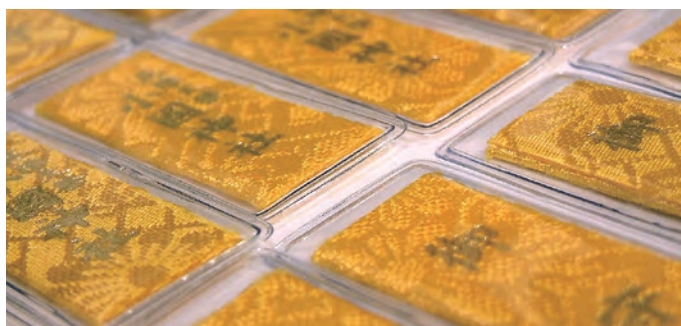
平成30年

1月20日(土)～2月3日(土)

春に祈る、充実した 一年を願って

今年も、小國神社では、一月二〇日(土)～二月三日(土)まで厄除大祭(やくよけたいさい)を執り行います。厄年のお祓いをはじめ八方塞除け、黒星災難除け、災い除けなど諸々のご祈禱をご奉仕いたします。祈禱受付でお申込み下さい。

(初穂料五、〇〇〇円から)



厄年とは？

古くから日本に伝わる考え方で、身の回りの凶事・体調不良など様々な難を招きやすい年とされています。

男性は二十五歳・四十二歳・六十一歳、女性は十九歳・三十三歳、三十七歳が「本厄」の年とされ、前後の年齢を「前厄」「後厄」と言います。

これらの年は神事で重要な「役(やく)」を担う風習があったことから、厄年の語源であるとも言われています。神さまに失礼のないよう慎み、心身を清浄にするため、ご祈禱を受けたのが厄除のはじまりとも考えられます。

厄年の過ごし方

厄年には、人生の節目を大切にしたい。生活の知恵や教訓が込められています。身体の変調期や生活環境の変わり目にあたり、体調を崩しやすいときに重なります。

厄除祈禱の際に授与されたお神札をおまつりし、お守りを身近に持って、健康に留意しながら慎重深く生活することが大切です。

無事に年を重ねたことの喜びをかみしめ、神々に「生かされている」ことを感じ、日々の家庭のおまつりを通じて清々しい心で生活したいものです。

平成30年八方塞がり・黒星一覽表

八方塞がり【九紫火星】
万事に慎重を要する年まわりと言われています

黒星【五黄土星】
運気が低迷する年まわりと言われています

昭和 21 年	73 歳
昭和 30 年	64 歳
昭和 39 年	55 歳
昭和 48 年	46 歳
昭和 57 年	37 歳
平成 3 年	28 歳
平成 12 年	19 歳
平成 21 年	10 歳
平成 30 年	1 歳

※上記の年齢は数え年です

昭和 16 年	78 歳
昭和 25 年	69 歳
昭和 34 年	60 歳
昭和 43 年	51 歳
昭和 52 年	42 歳
昭和 61 年	33 歳
平成 7 年	24 歳
平成 16 年	15 歳
平成 25 年	6 歳

※上記の年齢は数え年です

平成30年厄年一覽表

男 性

女 性

前 厄	本 厄	後 厄	前 厄	本 厄	後 厄
昭和34年	昭和33年	昭和32年	昭和58年	昭和57年	昭和56年
60歳	61歳	62歳	36歳	37歳	38歳
昭和53年	昭和52年	昭和51年	昭和62年	昭和61年	昭和60年
41歳	42歳	43歳	32歳	33歳	34歳
平成 7年	平成 6年	平成 5年	平成13年	平成12年	平成11年
24歳	25歳	26歳	18歳	19歳	20歳

※上記の年齢は数え年です

※上記の年齢は数え年です

サラシナシヨウマ

当社は四季折々の自然に恵まれた豊かな杜に生まれ、ご神域には多くの草花が息づいています。

ご紹介するご神域の草花の写真の数々は崇敬者の山崎克己様の奉納写真をもとに掲載いたします。

サラシナシヨウマ（晒葉升麻）

キンポウゲ科サラシナシヨウマ属

花期 八月～十月

生育地 山地の木陰や草原

分 布 北海道から九州

根は「シヨウマ（升麻）」と呼ばれる生薬に用いられ、若葉は山菜として食用されます。

三〇センチ程と背の高い花穂に、白く細かい毛のような花を咲かせるのが特徴です。見た目の近似から「シヨウマ」の名前が付く植物は他にもありますが、薬効が認められるのは本種とされます。

サラシナシヨウマ



新しい「かみだな」のかたち 神杉の木霊

『感謝』と『祈り』の場所を整える、いつもの朝が少し変わる

今、改めて『かみだな』が注目されています。

物や情報があふれ、せわしない日常の中で、私たちは時に自分の心を見失いがちです。

『かみだな』の前で自分自身を深く見つめ、静かに神さまに手を合わせることで、見落としていた心に気がつくことができます。

このような時間を日々の生活の中に取り入れることで、私たちの心は『豊かに潤い』、『丁寧な一日』を始めることができます。

近年では、住宅事情の多様化により『お神札を丁寧におまつりできず困っている』との声が多数聞こえ

てきました。

そこで当社では、それぞれの生活スタイルや住環境に馴染む『かみだな』をご提案しています。

『神杉の木霊』は、当社のご神域に育つ「神杉」を使い、静岡の職人が一つ一つ丁寧に創りあげ、包み込むような柔らかい印象が特徴の『かみだな』です。

洋室や一人暮らしの部屋にもスツと馴染む自然なデザインで、壁に大きな穴を開けず、お神札を丁寧にまつりすることができます。

『神さまを身近に感じて暮らす、丁寧な暮らし』を始めてみませんか？



初穂料 5,000円也 ▲



小國神社 かみすぎのこだま

検索

編集後記

玉垂五十一号をお届けいたします。本年の紅葉は大変美しく、多くの皆さまにお楽しみいただきました。一年を締めくくりに相応しくご神域が錦に色づく様はまるで、今年一年の彩りを決めているかのようです。

さて本年は、様々な国の皆さまがご参拝されました。言語の違い、文化の違い、信仰の違いがあるなかで、皆様共通して「大いなる何か」の存在を感じ、自ずから神聖な気持ちになつたとお話になります。

神社はいかなる信条の人も拒みません、いつどんな時にも訪れて良い場所です。

その時に大切なことがあるとすれば、それは「素直な心」と「敬う心」を持って訪れることではないでしょうか。